

三箇錫子 タケコ 女子教育家。明治五年四月二十日石川縣金澤生れ、大正十年二月十一日歿（八七一—九二）。本名壽々。明治二十五年女子高等師範學校數學科卒。北海道、東京で教職、うち鎌倉女學校教諭時代の四十二年一月二十三日午後、七里ヶ濱沖で逗子開成中學校所有のボートが沈没、乗組の少年十一名全員が溺死する事故が起き、自身逗子に居住してゐる救助作業を自撃後、へ真白き富士の根への歌ひ出しで知られる「七里ヶ濱の哀歌」を作詞。翌月六日行はれた追弔大法會の際、鎌女最上級（四年）生全員によつて初めて歌はれた。その後と歌ひ繼がれ、大正五年には單行の樂譜と出版、爾來演歌となつて流布。同五年東京澁谷に創設せられた常盤松女學校の初代校長に就任。一方女子共學堂生を養ひ、各流婦人の良樂の慈善や形式的な會合には愛國婦人會（式）と批判的で、平塚らいてう等の新婦人運動には陰ながら助勢。生涯獨身。

遺著「婦人生活の創造」（大正十年十一月）（百寶業之日本社）ひは、生活苦の體驗を綴つた「涙と汗の記（自敘傳）」を附載。また遺雜事故を扱つた宮内寒瀟著「七里ヶ濱」（昭和五十二年一月）（二十日新潮社）は、錫子と歌曲の成り専情いふ言及。

